

令和2年度第2回医療的ケア児を持つ保護者への意見を伺う会

作成：障害保健福祉課

開催日時	令和3年3月12日 午前10時30分～午前11時45分
開催場所	浜松市役所北館 101, 102会議室 (Zoomを使ったWeb開催と併用)
出席者	会場参加 6名、Zoom参加 5名 (医療的ケア児者、重心児者の保護者10名、施設職員1名) 幼児教育・保育課 2名 事務局 障害保健福祉課 2名
プログラム	① 自己紹介 ② 医療的ケア児等全数把握調査について ③ 災害時支援について ④ 福祉サービスについて ⑤ 浜松市の医療的ケア児等支援に関する取り組み ・医療的ケア児等支援者養成研修 ・浜松市障がい者自立支援協議会浜北天竜エリア連絡会について ⑥ 医療的ケア児等コーディネーターについて
内容	<p>○医療的ケア児等全数把握調査について ※資料を元に事務局より説明</p> <p>○災害時支援について (事務局より) ・相談支援専門員がサービス等利用計画を立てる中で、災害時個別支援計画を立てていく予定。相談支援専門員と災害時を含めた緊急時の対応について状況確認をしていただきたい。 ・計画作成の対象者は、人工呼吸器(常時使用)、在宅酸素(常時使用)を受けている方を優先して行う。</p> <p>○障害福祉サービスについて ※資料を元に事務局より説明 <ご意見> ・医療的ケア児等の対応ができる施設は地域によって偏りがある。浜松市としてその対応ができないか。 ⇒(事務局) サービス事業所の地域偏在に関する課題は把握しているが、医療的ケア児等の対応ができる事業所が足りていないため、まずは対応できる事業所を増やす取り組みを優先している。</p> <p>○浜松市の医療的ケア児等支援に関する取り組み ※資料を元に事務局より説明 <ご意見> ・浜北天竜エリア連絡会での取り組みを市全体に広げていけないか。 ⇒(事務局) 浜松市障がい者自立支援協議会は、障がい者の支援体制整備に向けて協議をする場。5つのエリア連絡会(中、西南、東、北、浜北天竜)において地域課題抽出等の活動を行っている。浜北天竜エリア連絡会の活動は、</p>

協議会の中核を担う企画会議にて報告されることから、同じような課題を抱えているエリア連絡会があれば活動が広がっていく可能性もある。

○医療的ケア児等コーディネーターについて

<ご意見>

- ・病院だけではなく、おおぞら療育センターとも連携してほしい。
- ・コーディネーターの資格要件はあるか。
⇒（事務局）医療と福祉の経験がある者が対応することとしている。
- ・コーディネーターは何人ぐらいの配置となるのか。
⇒（事務局）まずは1人を配置し、地域の実態を把握することから始めていく。
- ・コーディネーター1人の配置では、負担が大きいのではないか。
⇒（事務局）コーディネーターは地域全体の支援体制を整えていく役割もあるため、コーディネーター1人だけで対応するのではなく、計画相談支援事業所等をコーディネーターが支援しながら対応していく。
- ・医療的ケア児等の退院後、保護者が福祉分野の支援者とつながるまでに時間がかかっていると感じる。そのため、必要な福祉サービス等につながるには、保護者が動くしかない現状がある。退院時に保護者が必要な機関や支援者につながるように保護者向けのチラシなどがあると良い。
- ・コーディネーターはどのような相談に関して対応してくれるのか。
⇒（事務局）どのようなサービスを受けたらよいかわからない、担当の相談員に話してもうまくわかってもらえないなど、当事者や保護者が困っていること等に対応する。
- ・コーディネーターには保護者の意見をきちんと吸い上げてほしい。
⇒（事務局）コーディネーターが相談の中で把握した課題は、市とコーディネーターの打ち合わせの際に共有、医療的ケア児等支援協議会へ報告していく。
- ・計画相談支援事業所の関わりがない場合、コーディネーターへ相談すれば良いか。
⇒（事務局）そのとおり。
- ・福祉サービスを利用する場合、保護者自らが施設へ連絡し、受け入れに関して相談していることが多い。コーディネーターには新規施設の開所状況や施設の空き状況等のハード面の情報を持ってほしい。浜松市は施設状況等のハード面の整理をすると共に、コーディネーターとハード面に関して情報共有してほしい。
- ・コーディネーターには制度のことにしても最新の情報を持ってほしい。
⇒（事務局）月に1回コーディネーターとの打ち合わせを行っていく中で、制度やサービスに関する情報などの共有も行っていく。

○その他

<ご意見>

- ・後天的に医療的ケア児、重心児となった場合、県外の病院に受診していることが多い。そのような場合、どの支援機関にもつながることができず浜松に戻ってきて在宅生活が始まってしまう現状があることを知ってほしい。
- ・成人に対応している医師や看護師にも、在宅医療や在宅支援に関して対応できるようになってほしい。

備考